

— 病院とみなさまのかけ橋 —

ふれあい

CONTENTS

- 医師からのメッセージ … 1
- 看護の現場から …… 2
- 医療技術ニュース …… 3
- 職場紹介コーナー …… 4
- みなさまへお知らせ/知っ得情報 5
- 遊びの広場 …………… 6
- 情報ステーション …… 7
- ふれあい箱の回答/編集後記 8



副院長 及川道雄 (整形外科)

「膝の軟骨がすり減ってますね。この「ふれあい」を読む人の中には、医師からこのように言われた経験がある人も多くいるのではないのでしょうか？」

膝の軟骨が減って、痛みがでる病気を変形性膝関節症といいます。変形性膝関節症の発生頻度は、50歳を過ぎると急激に増加し、60歳以上では人口の80%以上の人にレントゲン上の何らかの変化が出現し、約40%に症状があり、約10%に日常生活に支障をきたしていると考えられています。

治療は、肥満の人は減量することが一番の治療で、筋力トレーニングなどの運動療法も有効です。医療機関では、消炎鎮痛剤などの薬物療法や、ヒアルロン酸の関節内注射が一般的です。多種多様なサプリメントも販

変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術

売られています。その効果については医学的にはまだ結論が出ておりません。

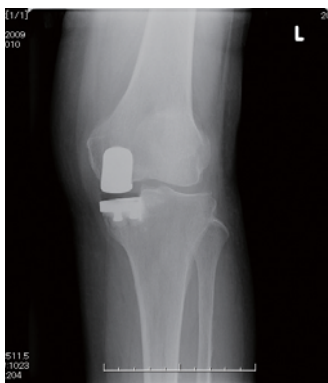
人口の高齢化に伴い、高度の関節変形を生じている患者さんも増えてきております。変形が進むと、痛みがひどくなり、日常生活に著しい支障が出てきます。

人工関節の耐用年数が15年から20年であるため、70歳以上の患者さんには、人工関節による手術を勧めております。近年、膝の人工関節手術を受ける患者さんの数は増えており、2年間に日本全体で5万から6万件と推測されております。

当科では、変形の軽い膝には単顆置換術を、進行した変形には全置換術を行っております。



人工膝関節 (全置換術)



単顆人工膝関節を入れた患者さんのレントゲン写真



全人工膝関節を入れた患者さんのレントゲン写真



進行した変形性膝関節症

最近膝の痛みで日常生活に支障が出ている方は、ご相談ください。